



星野学園中学校・星野高等学校

HOSHINO JUNIOR HIGH SCHOOL / HOSHINO HIGH SCHOOL

伝統と革新の星野 生徒が主役の教育で 未来への扉をひらく



松田友宏 校長補佐



白田弘幸 高等学校副校長



石原キャンパス

【石原キャンパス】川越市石原町 2-71-11
Tel. 049-222-4489
アクセス 川越駅、川越市駅、入間市駅
などからスクールバス

【末広キャンパス】川越市末広町 3-9-1
Tel. 049-222-4488
アクセス 川越市駅より徒歩 12 分
本川越駅より徒歩 14 分

今回は埼玉県を代表する私立の学校である星野学園中学・星野高等学校を訪問し、校長補佐の松田先生と高等学校副校長の白田先生にお話を伺った。星野には女子部がある末広キャンパスと、共学部および小学校・中学校がある石原キャンパスのふたつがあり、取材では石原キャンパスを訪問した。



全人教育

星野の歴史は古く、開学は実に 120 年以上もさかのぼる。長く女子高として自立した女性を世に送り出していたが、2000 年には男女共学の星野学園中学校を開校し、つづいて高校に共学部をスタートさせた。こうみると星野には中高一貫校、高校の女子部、そして高校の共学部の 3 つの学校がそれぞれの特徴を持った教育を行っていると思われるかもしれない。しかし、お話を伺うと全くそうではなかった。星野としてのひとつの伝統、「全人教育」がそこにはあった。

星野の目標は、「教養教育により良き市民を育成する」ことであり、次の 3

つの育成目標が掲げられている。

- ・礼儀正しく品格のある人間の育成
- ・失敗を恐れずチャレンジする人間の育成
- ・真理や正義を探求する人間の育成

これらを通して行われるのは全人教育であり、単なる受験勉強とは異なるものだ。これを中高一貫では 6 年かけておこない、高校の共学部では同じ教室に男女がいる環境でおこない、女子部では異性の目のないのびのびした環境でおこなう。

まじめさは先生との信頼関係のなか、学校生活の中で自然と形成され、先輩から後輩へと受け継がれる。まじめでいることを冷やかされることもなく、安心してまじめでいられるのが星野だ。

日々の学習指導

授業は習熟度別でおこなわれ、ミニテストと手厚い補習を実施することで取り残される生徒をださない。そして、まじめな生徒は伸びる。星野の学習指導のこだわりはいかに伸ばすかにある。できる子をかきあつめて合格実績をつくるのではなく、星野にいる 3 年間、6 年間でいかに生徒を伸ばすか、そこに星野の教育のこだわりがあるという。

表現力・記述力を培う

これからの大学入試で問われることになる表現力、記述力。星野ではこういっ

た能力を単なる大学入試突破のテクニックにとらえず、実社会に出てからも役に立つ力にとらえている。これからは丸暗記で合格できたり、未来が開けたりする時代ではない。AI の活用が進む中、人間としての強み、人としての道、倫理観を身につけることが重要だというのが星野の考えだ。こういった考え方は中学受験の問題にも反映されているという。

星野ではグループに分かれて調べ学習をし、別のことを調べたもの同士で議論をして、最終的にみんなに発表するという



自習室。このほかにも生徒ホールなどで自習ができる。

ラジグソー法での授業をおこなうことがある。一方通行ではない授業、いわゆるアクティブラーニングだ。また、小論文講座や小論文添削も実施され、外部の講師を招いた小論文講演会もおこなわれている。これは短期的には受験対策としての役割をもつ取り組みだが、培われた表現力、記述力はやがて大学を出て実社会に出た後も役立つことだろう。

国際人教育

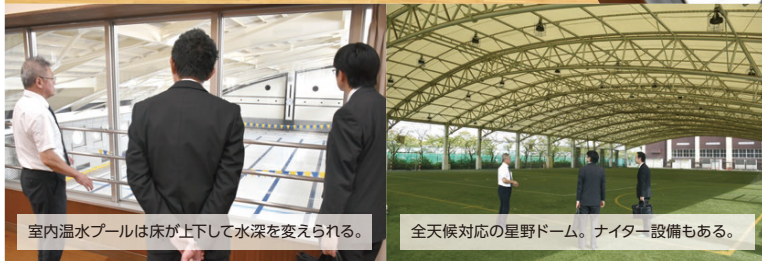
国際人教育としては、英語教育、異文



1,500席のキャパシティのハーモニーホール。舞台そでにピアノが2台収納されている。1台はスタンウェイで、もう1台は拡張された低音キーが黒く塗られているのが特徴のペーゼンドルファー。



野球場、サッカー場、ソフトボールグラウンドと並ぶ。いずれもナイター設備を備える。他にも的が12個設置できる県内有数規模の弓道場がある。



室内温水プールは床が上下して水深を変えられる。

全天候対応の星野ドーム。ナイター設備もある。



ロッククライミング広場。



第2体育館の2階。1階には卓球場や最新鋭設備のトレーニングルームなどがある。

化コミュニケーション、海外修学旅行をおこなっている。星野には120年以上にわたってずっと英語教育を重視してきたという伝統がある。実践的な活動で4技能を徹底的に学習している。検定やネイティブによる授業に力を入れるなど定評があり、生徒たちも検定では自然と上の級を目指す校風があるという。英語教育とともに芸術鑑賞やアーティストとの交流によって異文化コミュニケーションを体感し、海外への修学旅行によって国際社会の一員としての自覚を促す。

芸術鑑賞会

星野では情操教育は本物であることがキーワードとなる。ひとつ例を挙げると芸術鑑賞会だ。オーケストラやバレエなど、世界的に著名なアーティストを招いての芸術鑑賞会がおこなわれている。もちろんそのためには世界レベルのアーティストに見合った器が必要となるが、石原キャンパスにあるハーモニーホールがそれにあたる。1,500席のキャパシティと奥行きのある広い舞台。感性豊かな思春期



ハーモニーホール

に教養や品格に磨きをかけ、バランスの良い人間を形成するうえで、芸術鑑賞会は重要な役割を担う。

クラブ活動

生徒の成長の場として、勉強と同じくらい重要なのがクラブ活動だ。星野には実にたくさんのクラブがある。新入生は、これまでの自分の経験を生かしたクラブか、まったく新たなチャレンジをするか大いに迷うのではなかろうか。いずれにせよ、そこには温かく迎えてくれる先輩たちがいる。活動を通して自信を持ち、所属意識や連帯感を育むことも人間の成長におおいに役立つ。星野で身につくのは学力だけではない。学年やコースを越えた人間関係構築の経験は社会に出てからも大いに役立つことだろう。

活躍しているクラブは運動部にも文化部にも多くある。施設面も充実していてもキャンパス内にある。例えば野球場とサッカー場とソフトボールグラウンドが一行に並んでいる広大な姿は圧巻だ。他にも屋根つきグラウンドの星野ドーム、床が上下して水深を変えられる室内温水プールなど、ユニークで実用的な施設に驚かされる。女子部の生徒たちは末広キャンパスから石原キャンパスまで来ることになるが、自転車なら5分程度で移動できる。

このような環境でクラブ活動に参加し、

生徒たちは教室以外にも自分の居場所を見つけ、達成感や自己肯定感を味わう。

勉強やクラブ活動以外にも生徒が活躍する場はたくさんある。星華祭と名づけられた文化祭は学校の規模と同じく大規模なもので、イベントを成功させるなか



体育祭でのクラス集合写真。生徒の笑顔が印象的だ。

で人間関係、信頼関係を築く。体育祭はクラス単位で楽しく応援合戦を繰り広げ、歩け歩け大会では、走ってはいけないというルールで入間川沿いを18kmにわたって仲間と歩く。

ソフト面もハード面も充実していてもこの紙面で語りつくせるものではない。中学受験生でも高校受験生でも、ぜひ実際に星野を訪問していただきたい。